

令和元年 5 月 20 日

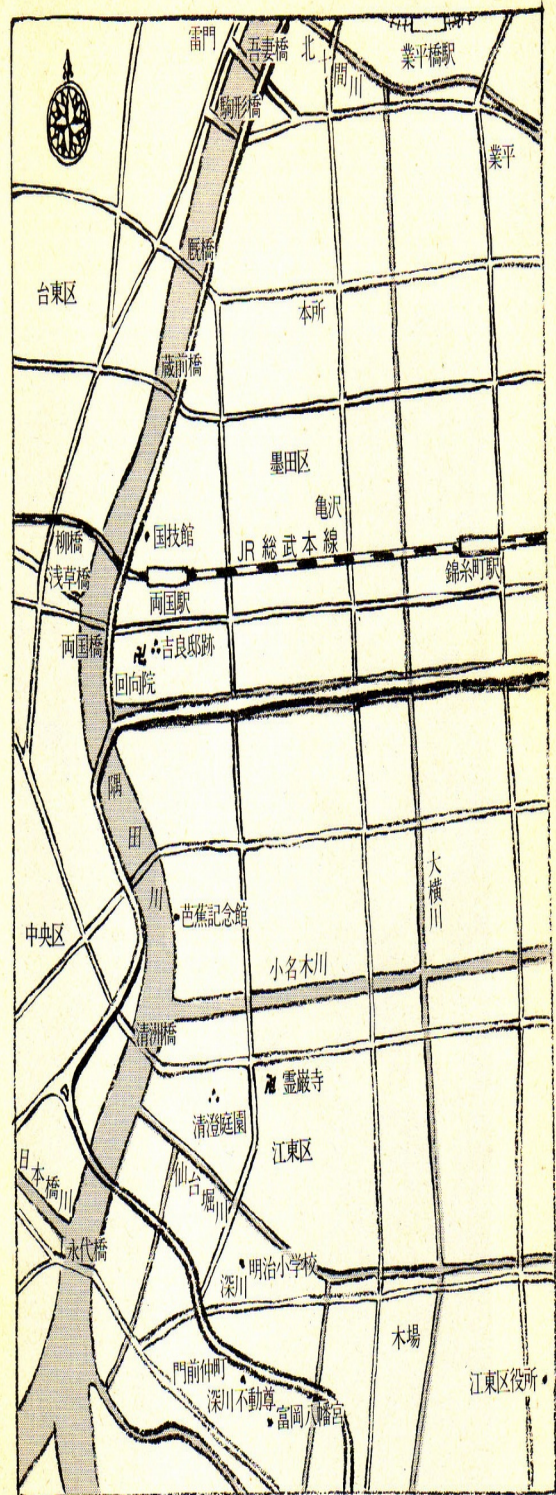
1. 集合場所 都営地下鉄大江戸線/都営地下鉄新宿線 森下 A1 出口
2. 集合時間 10:00 厳守 14:30 解散
3. コース 芭蕉記念館→万年橋→清澄庭園→霊岸寺→
深川江戸資料館→昼食→富岡八幡宮→深川不動尊



9 本所深川散歩

世界の首都で、江戸ほど火事の多かった都市はない。
自然、材木問屋がもうかった。
近代以前では材木問屋は巨大資本というべきものだったから、その根拠地である深川とい
う土地の存在は大きかった。
まず、材木問屋の当主たちの寄合の場として当然ながら色町が発達した。
材木商は人足をふんだんに使って、いわば男くさい商売だった。
旦那衆はともかく、木場で働く男たちのあいだでは、気っぶが重んじられた。
自然、色町の側もその風に染まり、女たちも、俵気を誇るようになった。
「辰巳芸者」
などと、よばれた。江戸の代表的遊里である吉原が北里とよばれるのに対し、南東とよば
れたところから出たらしい。
江戸時代、羽織は男しか着ないものであったのを、深川芸者は女ながらも羽織を着たから、

深川木場
ふかがわきば



- 深川芭蕉庵跡** 芭蕉は門人杉山杉風の別荘に寄宿し、ここから奥の細道の旅に出た。戦後、付近の住民がこのあたりだろうと、有志がたてたもの。
- 芭蕉記念館** 江東区が松尾芭蕉の業績を顕彰するため、昭和五十六年に開館したもの。
- 万年橋** 北斉の富岳三十六景にえがかれた。
- 清澄庭園** かつて元禄の豪商紀伊国屋文左衛門の別邸であった。享保年間（十八世紀）下総関宿の城主久世大和守（幕末の外交を担当）の下屋敷となり、明治維新ご前島密（郵便の父）の屋敷、さらに岩崎弥太郎が買収一八七八年造営して深川親睦園といった。震災後東京市に寄付され昭和七年清澄庭園として開放された。
- 霊岸寺** 一六二四年（寛永元）創立浄土宗の大寺院、境内の左手に丈六の銅造地藏菩薩像（都有形）がある。境内の奥左手の一角に寛政の改革をおこなった松平定信の墓（国史跡）がある。
「奥の細道」那須雲岸寺に佛頂和尚（深川での参禅の師）をしのんでいる。
- 深川江戸史料館** 江東区立の博物館
- ほしかば(干鰯場)跡** 江戸中期以降、都市の発展と商業の発達、商品作物の栽培を盛んにして、野菜や加工原料農産物の販売は、外部からの肥料購入を可能にした。この購入肥料のことを金肥といい、魚肥（干鰯・鰯粕）油粕などがある。
- 富岡八幡宮** 江戸っ子の祭礼で有名。辰巳の花街や木場の繁栄を背景に芝居や小説小唄など庶民文芸にしたまれてきた。社殿の手前を右折すると木場の角乗り碑、社殿の左に深川の力持ち碑とさしあげた石、社殿の右奥に巨大な巨大な横綱の碑があり、江戸中期この境内で勧進相撲が行われていたことによる。
- 深川不動尊** 成田不動の別院、境内左の石垣は東大工学部を明治十二年に卒業した工学士佐立七次郎の作。明治三十一年に不動信仰する灯明講が奉納したもの。奉納者名が当時の歌舞伎役者、料亭、問屋などの名がみられる。